

山口県のドングリ

(13) 豊北町、豊浦町の神社林のドングリ

松富憲之*・阿部弘和

山口大学教育学部生物学研究室

Fagaceae in Yamaguchi Prefecture

(13) Fagaceae in the compound of shrine in Hohoku-cho and Toyoura-cho

Noriyuki MATSUDOMI and Hirokazu ABE

(Biological Institute, Faculty of Education, Yamaguchi University)

(Received September 26, 2003)

Summary

The specie of Fagacea in the compound of 30 shrines in Hohoku-cho and 24 shrines in Toyoura-cho was investigated.

Twelve species belonging to four genera, 9 broad-leaf evergreen species and 3 broad-leaf deciduous species, were identified: *Quercus phillyraeoides*(in 1 shrine), *Q.glauca*(in 24), *Q.acuta*(in 3), *Q.gilva*(in 4), *Q.salicina*(in 8), *Q.sessilifolia*(in 2), *Lithocarpus edulis*(in 2), *Castanopsis cuspidata*(in 30), *Q.acutissima*(in 3), *Q.serrata*(in 13), and *Castanea crenata*(in 10). The average number of species per a compound was 1.8 and 2.0, respectively.

In this area, *C.cuspidata* and *Q.glauca* are dominant and common species: observed in 56% and 44% of 54 shrines, respectively. To addition these, *Q.gilva* was found in 7 % of 54 shrines, although it has appeared in only 1% of 906 shrines which had been studied. These are seemed to be a characteristic species in this area.

序 論

我々は山口県の自然環境を明らかにすることを目的に、自然植生のよい指標と考えられるドングリと呼ばれているコナラ属、マテバシイ属に加え、シイ属とクリ属も合わせたブナ科の樹木について各地の神社林で研究してきた。そして、1986年以来、これらの樹木の種類や生態等を山口市・小郡町（花岡・阿部、1986）、阿武郡・萩市（阿部・森田、1989）、防府市・徳地町・鹿野町（阿部・郡司、1991）、宇部市・楠町・美東町（阿部・臼井、1994）、秋芳町・三隅町・

* 山口県立豊浦養護学校

長門市（阿部・臼井、1995）、由宇町・岩国市・和木町（西村・阿部、1996）、大島郡（阿部・岡原、1997）、熊毛郡・柳井市・大島町（阿部・岡原、1998）、下松市・熊毛町・光市（阿部・原田、1999）、徳山市・新南陽市（阿部・原田、2000）、小野田市・山陽町・美祢市（阿部・小路、2001）油谷町・日置町（阿部・松富、2002）の合計906の神社林で調査した。

これら一連の研究を通じて、906の神社で併せて、4属17種のドングリを観察した。そして、17種のなかには、アラカシやコナラやツブラジイのようにどこでも普遍的にみられ、山口県全域に渡って広く分布する種とアカガシやイチガシのように希な種があり、種によって出現頻度が大きく異なる事を明らかにした。しかし、シイのように普通にみられる種であっても、詳細に調べると出現頻度は地域ごとにより異なっていることもわかった。例えば、シイ属の2種のうちスタジイの出現頻度は、日本海側では東端の田万川町・須佐町・阿武町・萩市から三隅町にかけては50%を超えるが、その西側の長門市では14%、さらに日置町・油谷町では3%と減少していた。これに対して、ツブラジイの出現頻度は田万川町・須佐町・阿武町・萩市ではわずか6%であるが、三隅町で30%、長門市で43%、日置町・油谷町で71%と増加していた。また、県内では希な種であるアカガシについても、日置町・油谷町、美祢市など、非常に高い出現頻度を示す地域があることもわかった。このようにドングリの種類や分布は山口県という狭い範囲に於いても地域で差があり、自然環境のよい指標となり得る事を強く示唆している。

この研究では、ツブラジイやアラカシが優占し、アカガシが比較的多かった日置町・油谷町より更に西側に位置する、日本海に面した豊北町と豊浦町にある54の神社でドングリの種類や分布の調査を行った。

調査の方法

調査は国土地理院の2万5千分の1の地図をもとに、実際にあった豊北町の30の神社と豊浦町の24の神社の、合わせて54の神社で行った。これら54の神社の位置は図1に、また、神社名と所在地は表3に示してある。各神社では社殿などの建造物を囲む境内の林とそれに隣接する林をできるだけ広い範囲で調査し、生えているドングリの種類と位置を調べた。さらに、大きな個体については胸高直径と樹高を測定した。ドングリの分類は阿部(1985)、原・阿部(1985)、岩田(1965)、北村・村田(1979)、および、矢頭・岩田(1966)に従い、いくつかの神社では社寺林調査研究委員会(1985)と山口県野外植物研究委員会(1993)の資料、また、山口県の巨樹資料(岡国夫、2000)を参考にした。調査は平成13年6月から平成14年7月に実施した。

結 果

神社と神社林の景観

豊北町と豊浦町は山口県北西部に位置し、日本海(響灘)に面している。内陸には白滝山(668m)、狗留孫山(616m)、鬼ヶ城山(619m)など600m前後の山が連なっている。その気候は対馬暖流の影響を受け内陸を除いて温暖である。豊北町は丘陵地が多いが、海岸は北長門海岸国定公園および西長門海岸県立自然公園となっている。豊浦町は海岸沿いに平野があり、内陸側は山がちで、一部は豊田県立自然公園となっている。漁港も多く、全体として農耕地として利用され、また、至る所に住宅地が散在している。調査した54の神社のうち、33の神社は海岸付近の平地または丘陵地に、残りの21の神社が山間部に建立されていた。

豊北町の阿川八幡宮、滝部八幡宮、田耕神社、豊浦町の宇賀八幡宮、吉永八幡宮はいずれもよく手入れされた境内と立派な社殿があり、地域の核となる大きな神社であり、神社林も比較

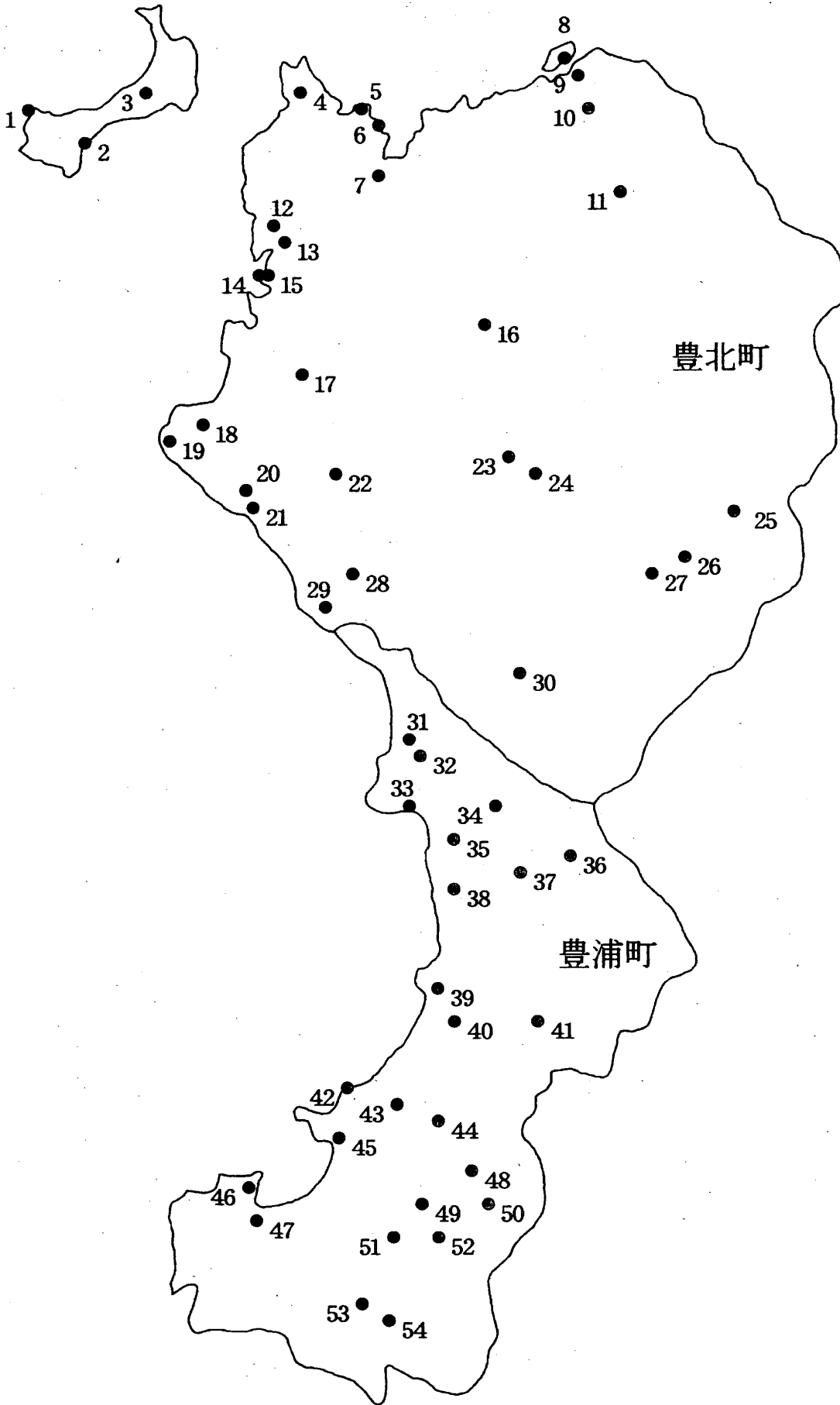


図1 神社の所在地 (番号は表3の神社の番号を示す)

的であった。阿川八幡宮には胸高直径120cmの県内で最大の個体を含む直径70cm以上のイヌマキだけでも14本も繁茂するイヌマキ巨樹群があった(図2 A)。イヌマキは南西諸島に多い樹種であって通常照葉樹林内に散見する程度で、成長の遅いイヌマキが巨樹の純林をつくるのは非常に希であり、昭和53年にはイヌマキ群落の典型として山口県の天然記念物に指定されている。この林内にはイヌマキの他に、ホルトノキ、ハマビワ、シロダモ、トベラなどの代表的な海岸性照葉樹も散在しており山口県では特異な神社林と考えられる。滝部八幡宮には昭和52年に山口県の天然記念物に指定された巨大なイチイガシがあった(図2 B)。幹は一部割裂し内部は空洞化しているが樹高18m、胸高直径170cmで樹勢は盛んであり、枝にはフーランやノキシノブが着生していた。この巨樹以外にも境内にはイチイガシが多く見られた。また、イチイガシの他、アカガシ、アラカシ、ウラジログシ、シラカシ、ツブラジイの高木が混生していた。カシ類が多い神社林は大変珍しく、貴重な神社林である。そして、豊北町の住吉神社(表3 神社番号22)もイチイガシの巨樹(樹高30m・胸高直径140cm、樹高30m・胸高直径80cm)がある照葉樹林となっていた(図2 C)。この神社林は、高木層はツブラジイ、ウラジログシ、イチイガシ、ヤマモモ、コバンモチ、亜高木層はヤマビワ、オガタマノキ、サカキ、タイミンタチバナ、低木層はツブラジイ、モッコク、ヒメユズリハなどで構成されており、樹種の多い照葉樹林である。さらに、田耕八幡宮の神社林はツブラジイを優占種とするツブラジイ-サカキ群落のこんもりとした美しい森となっており、独特な景観をつくっていた(図2 D)。この神社には内部が空洞化しているが樹高13m、胸高直径160cmのツブラジイの巨樹があり神木となっていた。そして、この他にも豊北町の綿津見社、市守神社、八城神社、豊浦町の宇賀八幡宮(図2 E)、川嶋神社、若宮社、大歳宮、吉永八幡宮(図2 F)などでもツブラジイが優占する常緑林が見られた。

豊北町の恵比須社(表3 神社番号8)は本土からわずか100m沖合の小さな無人島に建立されていた。この島は全体が鬱蒼とした照葉樹林となっており、その景観は遠くからでも際だっていた(図2 G)。七社大明神の社叢も山口県では特異な神社林である。この神社林はイスノキ-ホソバカナワラビ群落とされ、林内には胸高直径120cmのタブノキ、直径120cmのツブラジイなどの巨樹を含む、直径90cmの巨木をはじめとする多数のイスノキが生える照葉樹林となっていた。イスノキの群落は九州南部によく見られるが県内の典型的なものはここだけで、豊北町の天然記念物に指定されている(図2 H)。

これら比較的自然が残ったと思われる神社林に対して、豊北町の粟野八幡宮、招魂社、河内神社、豊浦町の大歳神社、河内大明神、小野神社などではスギ・ヒノキ林が、また、豊北町の天満宮、神功皇后神社、豊浦町の若宮社などでタケ林がそれぞれ神社林の一部となっていた。

この地域には13の漁港があり、海での安全や豊漁の祈願のために港に建立された豊北町の恵比須神社(角島)、蛭子巖島神社、恵比須神社(神玉)、恵比須社(表3 神社番号9;図2 I)、豊浦町の恵比須神社、小島神社などでは神社林を欠いていた。

ドングリの種類

54の神社で合わせて4属12種のドングリを観察した。種類が最も多かった神社は豊北町の滝部八幡宮で7種類のドングリがあった。これに次いで豊北町の大川客神社には6種類のドングリがあった。一方、ドングリが全く無い神社も15あり、そのうち豊浦町の恵比須神社には樹木が全くなかったが、残り14の神社にはカイツカイブキ、サクラ、ソテツ、ツツジ、イチョウ、イヌマキなどが植樹されていたがドングリは全くなかった。1神社あたりのドングリの種の平

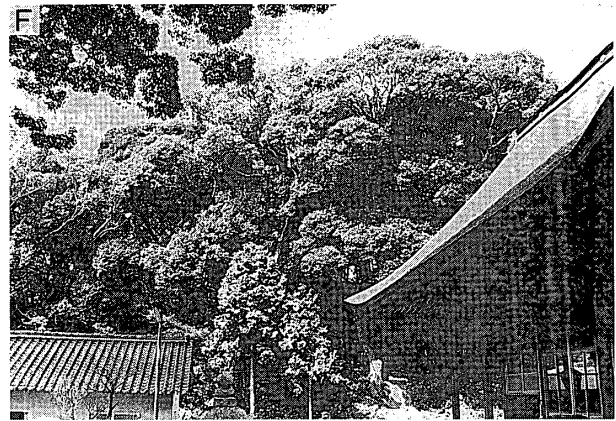
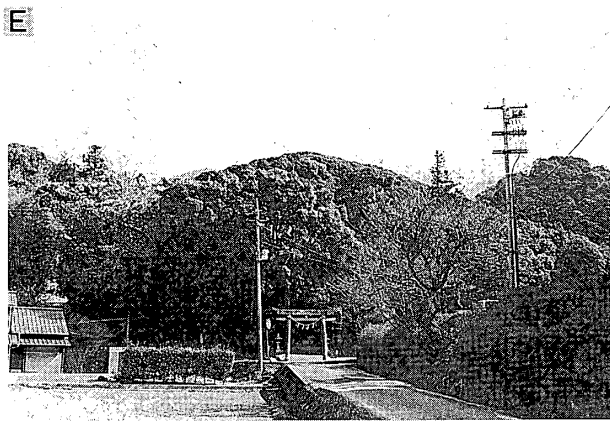
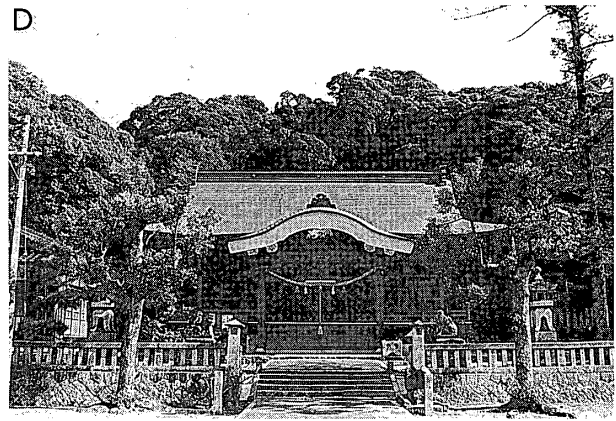
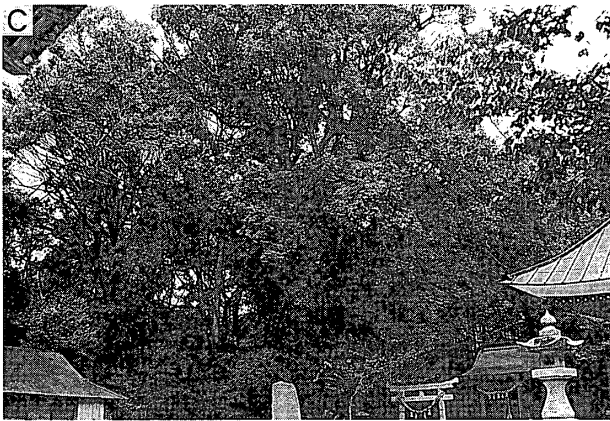
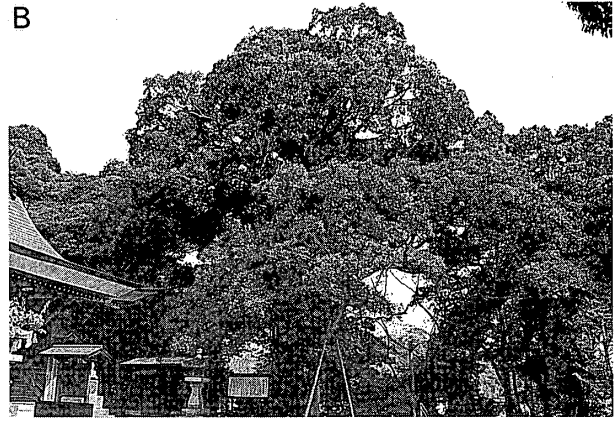
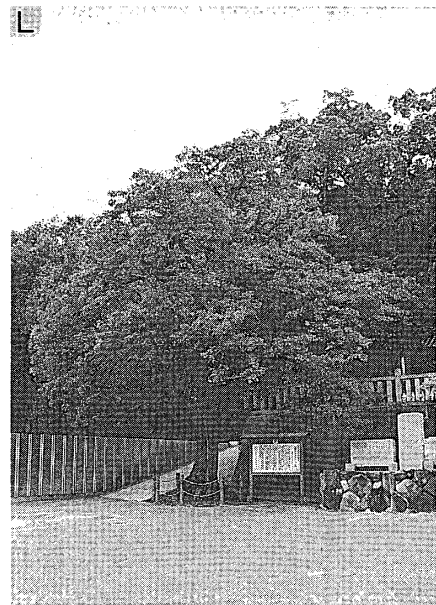
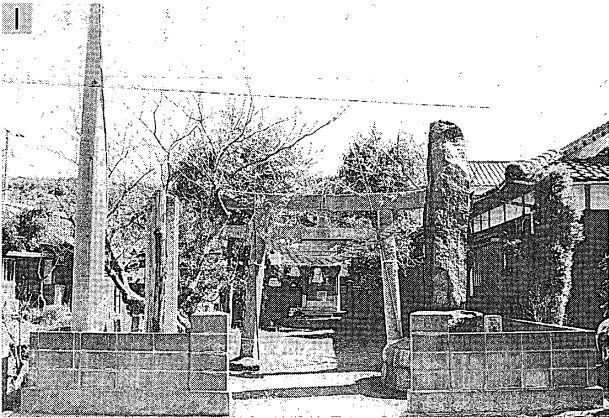
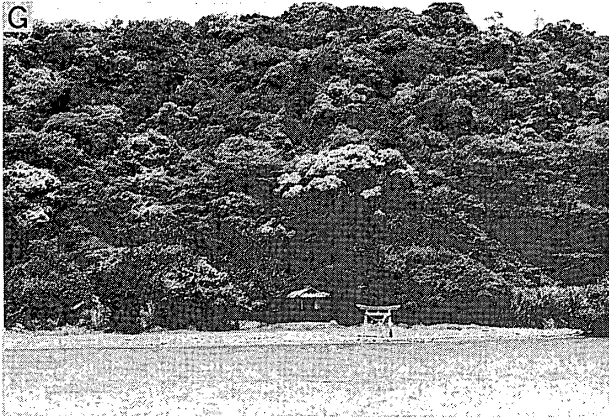


図2 神社と神社林

- A. イヌマキ巨樹群 (阿川八幡宮)
- B. イチイガシ (滝部八幡宮)
- C. 住吉神社
- D. 田耕八幡宮
- E. 宇賀八幡宮
- F. 吉永八幡宮



G. 恵比須社
I. 恵比須社
K. 松尾神社

H. 七社大明神
J. ウバメガシ林 (金毘羅社)
L. チシャノキ (川棚神社)

均は1.9種類であった。各神社のドングリの種類は表3に示してある。

12種類中、常緑のドングリはウバメガシ (*Quercus phillyraeoides*)、アカガシ (*Q. acuta*)、アラカシ (*Q. glauca*)、イチイガシ (*Q. gilva*)、シラカシ (*Q. myrsianefolia*)、ウラジロガシ (*Q. salicina*)、ツクバネガシ (*Q. sessilifolia*)、マテバシイ (*Lithocarpus edulis*)、ツブラジイ (*Castanopsis cuspidata*) の3属9種類であった。また、落葉性のドングリはクヌギ (*Q. acutissima*)、コナラ (*Q. serrata*)、クリ (*Castanea crenata*) の2属3種類であった。

最も多かった種はツブラジイで、54神社の56%にあたる30の神社にあった。これに次いで多かったのはアラカシで24の神社に、3番目はコナラで13の神社にあった。一方、ウバメガシ、マテバシイ、イチイガシ、アカガシなどの7種類は出現頻度が10%未満であった。しかし、ウバメガシは豊北町の金比羅社 (図2 J) で、マテバシイは豊北町の大川客神社で、イチイガシは豊北町の住吉神社 (表3 神社番号22) と滝部八幡宮で、アカガシは豊浦町の松尾神社でそれぞれ群生していた。

ツブラジイが優占する群落は豊北町の市守神社、豊浦町の宇賀八幡宮、川嶋神社、若宮社、松尾神社 (図2 K)、招魂社など至るところで見られた。しかし、スダジイは1本も観察できなかった。

2番目、3番目に出現率の高かったアラカシ、コナラは林と呼べるところはなく、ツブラジイの林に混じっていることが多かった。

この地域では、他の地域では希であったアカガシ、イチイガシ、マテバシイが比較的多く見られた。すなわち、アカガシは54の神社のうち3ヶ所で、イチイガシは4ヶ所で、マテバシイは2ヶ所で見る事ができた。そして、豊浦町の松尾神社ではアカガシが、豊北町の住吉神社 (表3 神社番号22) や滝部八幡宮ではイチイガシが、それぞれツブラジイと混生してはいるが林を形成していた。さらに、豊北町の大川客神社には県内では大変珍しいマテバシイが優占する林があった。

この地域の神社には胸高直径が100cm以上の大木が多かった (表1)。特にツブラジイの巨木が目立っていて、豊北町の七社大明神、住吉神社 (表3 神社番号22)、滝部八幡宮、田耕八幡宮、豊浦町の吉永八幡宮などで、直径100cm以上の個体が14本観察できた。最大の個体は田耕神社の神木とされている木で樹高は13m、胸高直径は160cmもあった。これはツブラジイとしては県内で2番目に大きな個体である。が、幹が途中で2つに分かれているのに加え、欠損部分や空洞も大きかった。イチイガシとアラカシにも直径100cm以上の巨樹が見られた。豊北町の住吉神社のイチイガシは樹高が30m、胸高直径が140cmで、滝部八幡宮の個体は樹高が17m、直径が170cmで、どちらも樹勢は旺盛であり、後者は県内でも3番目の大きさである。アラカシでは豊浦町の宇賀八幡宮で樹高16m・胸高直径100cmの個体が見られた。また、豊浦町の大歳宮には樹高21.5m・胸高直径93cmのクヌギがあった。ここまで大きいクヌギは県内でも珍しく、山口県で3番目の大きさである。

ドングリ以外では豊浦町の川棚神社のクスノキ (胸高直径200cm)、豊北町の阿川八幡宮のイチョウ (胸高直径140cm)、イヌマキ (胸高直径120cm) の巨木があった。阿川八幡宮のイヌマキは県内最大である。また、豊浦町の川棚神社には県内最大のチシャノキ (樹高14m・胸高直径80cm) があり、町指定の天然記念物となっていた (図2 L)。豊北町の栗野八幡宮には県内3番目に大きい胸高直径80cmのムクロジがあった。この他、タブノキ、ヤマモモなど、胸高直径100cm以上の巨木が合計15本も見られた。

表1 神社にあった大きな樹木

樹木の種類	所在地と大きさ
ツブラジイ	七社大明神 (120cm・18 m、115cm・18 m、100cm・18m)、住吉神社 (107cm・30 m、100cm・30 m)、滝部八幡宮 (120cm・18 m、120cm・10 m)、田耕神社 (160cm・13 m、110cm・13 m、100cm・15 m、100cm・15 m)、吉永八幡宮 (115cm・24 m、110cm・15 m) 松尾神社、(110cm・21 m)
イチイガシ	住吉神社 (140cm・30 m)、滝部八幡宮 (170cm・17 m)
アラカシ	宇賀八幡宮 (100cm・16 m)
イチョウ	住吉八幡宮 (100cm・20 m)、阿川八幡宮 (140cm・19 m)、粟野八幡宮 (100cm・25 m)、七社大明神 (100cm・29 m)、天満宮 (神田) (120cm・39 m) 神功皇后神社 (150cm・15 m、130cm・30 m)
エノキ	阿川八幡宮 (100cm・14 m)
クスノキ	天満宮 (神田) (170cm・39 m)、川棚神社 (200cm・20 m)
イヌマキ	阿川八幡宮 (100cm・14 m)
タブノキ	七社大明神 (120cm・18 m、100cm・18 m)、天満宮 (神田) (100cm・39 m)
ヤマモモ	住吉神社 (100cm・30 m)

() の数字は胸高直径と樹高を示す

表2 各地域のドングリの種類と出現数

ドングリの種類	ドングリの種類と神社数		
	豊北町 (30 神社)	豊浦町 (24 神社)	合計 (54 神社)
クヌギ	0	3 (13)	3 (6)
コナラ	4 (13)	9 (38)	13 (24)
アカガシ	2 (7)	1 (4)	3 (6)
アラカシ	11 (37)	13 (54)	4 (4)
イチイガシ	4 (13)	0	4 (7)
ウバメガシ	1 (3)	0	1 (2)
ウラジロガシ	7 (23)	1 (4)	8 (15)
シラカシ	3 (10)	0	3 (6)
ツクバネガシ	0	2 (8)	2 (4)
マテバシイ	2 (7)	0	2 (4)
ツブラジイ	15 (50)	15 (63)	30 (56)
ク　　リ	16 (20)	4 (17)	10 (19)

数字は出現数、() の数字は割合 (%)

地域ごとのドングリの種類

表2に今回調査した神社を、豊北町と豊浦町に分け、ドングリの種類とそれぞれの出現数をまとめた。豊北町と豊浦町には合わせて12種のドングリがあり神社あたりの種類数の平均は1.9種であった。種類は豊北町、豊浦町ともにツブラジイが最も多く、アラカシがその次であった。これまでの調査でもアラカシとシイは神社林で普通にある種で、この地域でもこれが確認された。しかし、二つの町を比べると、クヌギ（3ヶ所）とツクバネガシ（2ヶ所）は豊浦町だけで、ウバメガシ（1ヶ所）、イチイガシ（4ヶ所）、シラカシ（3ヶ所）、マテバシイ（2ヶ所）は豊北町だけでしか観察されなかった。また、ウラジログシは豊北町の7カ所（出現頻度23%）に比べ豊浦町は1カ所（出現頻度4%）、コナラは豊浦町の9ヶ所（出現頻度38%）に比べて豊北町は4ヶ所（出現頻度13%）と違っていた。耐寒性のあるウラジログシやシラカシは、豊北町で調査した神社の27%にどちらかが見られたが、豊浦町ではウラジログシのみが1ヶ所（出現頻度4%）でしか観察できなかった。このように隣接した二つの地域間でもドングリの種類や出現頻度には差が認められた。

一般に2種のシイのうち沿岸部ではスタジイがツブラジイにより多いとされているが、スタジイは両地域とも全く無かった。しかし、海岸に近いほど多いとされるマテバシイとウバメガシはあった。また、県内では希なアカガシは豊北町（2ヶ所）、豊浦町（1ヶ所）の両方で観察されたが、同じように希なイチイガシは豊北町（4ヶ所）にだけ分布していた。豊北町のイチイガシの出現頻度は13%となり、これまでの一連の調査の中で最も高い値である。

論 議

研究を通じて、この地域には巨樹が多いという印象を持った。ツブラジイ、イチイガシ、アラカシの3種には直径100cm以上の大木があり、7神社で合計17本も観察できた。また、ドングリ以外でも、直径100cmを越える個体が8神社で15本もあった。また、イヌマキ、チシャノキの県内最大の個体はこの地域にあり、さらに、クヌギ、イチイガシ、ツブラジイ、ムクロジについても県内最大級の巨樹がこの地域あることがわかった。

今回調べた54の神社を加えると、山口県内960の神社で調査を終えたことになる。これまでの結果で、山口県の日本海側のドングリの分布は田万川町・須佐町・阿武町・萩市、三隅町まではコナラ、スタジイ、ウラジログシが優占することがわかっている。しかし、その西側にある長門市、日置町、油谷町はツブラジイ、アラカシが優占となっており大きく変わっていた。特にスタジイは日置町・油谷町では1ヶ所にしかなかった。その更に西側である今回調査した地域もツブラジイ、アラカシが優占しており、日置町・油谷町と似ていることが確認できた。しかし、スタジイは全く観察できなかった。一般的に内陸部にツブラジイが多く、海岸部に近いほどスタジイが多いとされているが、少なくとも日本海側の西部には当てはまらないことがわかった。これについては海岸沿いではあるがツブラジイ優占になる要因がこの地域にある、あるいは、この地域はもともと高度の高い内陸部に位置していたなど様々な理由が考えられる。

イチイガシはこれまでわずか13の神社でしか観察されておらず（出現頻度1%）、県内では極めて希な種となっている。しかし、この地域では7%もの神社にあった。ただし、全て豊北町にあり、豊北町に限ると13%以上に達する。豊北町のイチイガシには胸高直径140cmと胸高直径170cmの大きな個体もあり、地域の人々によって手厚く保護されてきたと想像される。イチイガシは千葉県以西の日本列島から台湾、華南まで広く分布する暖帯照葉樹であるが、その材が強靱であるために利用価値が高く、古い時代に消費され、現在はあまり残っていないとされ

る樹種である。県内でイチイガシが多かったのは山口市の3ヶ所（出現頻度4%）、徳地町の2ヶ所（出現頻度5%）ぐらいで、豊北町の出現頻度13%はこれまでの調査で最も高く、特異な地域であると言える。また、これまでみたイチイガシの13カ所は、10の地域（熊毛町、光市、徳地町、山口市、小郡町、田万川町、三隅町、秋芳町、美祢市、油谷町）に広く散在していた。我々の研究は神社林だけを対象としており、神社林以外での広範な調査が必要であるが、イチイガシはもともと県内に広く分布していたと推測される。

アカガシもイチイガシと並んで山口では希な種である。実際、これまで調べた906の神社のうちわずか30ヶ所（出現頻度3%）でしか観察できなかった。しかし、この地域では3ヶ所にあり、出現頻度は6%となった。県内でアカガシの多かった地域は大和町（県東部）で5ヶ所（出現頻度38%）、福栄村（北部）で3ヶ所（出現頻度38%）、美祢市（西部）で3ヶ所（出現頻度6%）、油谷町（西部）で5ヶ所（出現頻度19%）などである。今回の調査から、美祢市、油谷町とこの地域を含め県西部に比較的多くアカガシが見つかったことになり、県西部には多くのアカガシがあったことを示唆している。

豊北町と豊浦町にあったドングリの種類数はそれぞれ10種と8種で、神社あたりの種類数の平均もそれぞれ1.8種と2.0種と似ていた。しかし、イチイガシのような希な種や巨樹が多いことから考えると、これまでの結果に比べて種類数は意外と少ない。これは、漁港に建立されたドングリが全くない小さな神社に起因している。実際、恵比須神社や御崎神社など13の神社を除くと、値は豊北町が2.5種（22神社）、豊浦町が2.2種（21神社）と高くなる。

暖地の海岸に多いとされるマテバシイとウバメガシも豊北町のそれぞれ2ヶ所と1ヶ所で観察した。どちらもこれまで多くは瀬戸内海沿岸の地域にあった（マテバシイ9ヶ所、ウバメガシ24ヶ所）。しかし、日本海に面する油谷町でもマテバシイ（2ヶ所）とウバメガシ（1ヶ所）があった。一般にマテバシイ群落は九州中南部によく発達し、本州では響灘沿岸によく分布している。豊北町の大川客神社の社叢はマテバシイ群落の北限とされ豊北町の天然記念物になっている。ウバメガシ林は県内では大島郡と宇部市の海岸沿いで観察されているが豊北町の海岸沿いにある金比羅社でもみる事ができた。響灘沿岸（日本海側）にもマテバシイやウバメガシの分布が広がっていると思われるが、少なくとも豊浦町の神社林では全く観察されず、神社林以外を調べることが必要かもしれない。

耐寒性のあるウラジロガシやシラカシも豊北町では8ヶ所（出現頻度27%）で見られたが豊浦町では1ヶ所（出現頻度4%）だけにしかなかった。逆にクヌギは全て豊浦町だけ（3ヶ所）にあった。コナラも豊浦町では9ヶ所（出現頻度38%）で、豊北町（4ヶ所、出現頻度13%）と比べると豊浦町の方が出現頻度が約3倍も高くなっていた。クヌギやコナラは人里近くに多い二次林を構成する落葉樹であり、このような違いは自然環境によるものなのか、自然植生が残っている度合いによるものなのかは今後検討する必要がある。

この研究によって、この地域には山口県の他の地域と異なるドングリの分布があり、また、豊北町と豊浦町との間にも差があることを確認できた。今後はこの地域に隣接する地域での研究をすすめ、山口県全域の分布を明らかにすることが課題である。

表3 神社とドングリの種類

番号	神社名	所在地	ドングリの種類
1	夢崎神社	豊北町角島	
2	恵比須神社	" 角島	
3	角島八幡宮	" 角島	
4	住吉八幡宮	" 神田	
5	金比羅社	" 阿川	コナラ、ツブラジイ
6	綿津見社	" 阿川	ツブラジイ
7	阿川八幡宮	" 阿川	
8	恵比須社	" 粟野	ツブラジイ
9	恵比須社	" 粟野	
10	金比羅社	" 粟野	アラガシ、ウラジロガシ、ウバメガシ、コナラ、ツブラジイ
11	粟野八幡宮	" 粟野	アラカシ、ウラジロガシ、コナラ、ツブラジイ
12	七社大明神	" 神田	ウラジロガシ、ツブラジイ
13	天満宮	" 神田	アラカシ、ツブラジイ
14	蛭子巖島大明神	" 神田	
15	特牛弁天社	" 神田	
16	熊野社	" 滝部	クリ、マテバシイ
17	大川客神社	" 神田	アカガシ、アラカシ、ウラジロガシ、シラカシ、ツブラジイ、マテバシイ
18	神功皇后神社	" 神玉	クリ
19	御崎神社	" 神玉	
20	齋八幡宮	" 神玉	イチイガシ
21	恵比須神社	" 神玉	
22	住吉神社	" 神田	アラカシ、イチイガシ、ウラジロガシ、ツブラジイ
23	滝部八幡宮	" 滝部	アカガシ、アラカシ、イチイガシ、ウラジロガシ、クリ、シラカシ、ツブラジイ、
24	市守神社	" 滝部	アラカシ、クリ、コナラ、ツブラジイ
25	中山神社	" 田耕	アラカシ、クリ
26	田耕神社	" 田耕	アラカシ、イチイガシ、ウラジロガシ、ツブラジイ
27	招魂社	" 田耕	アラカシ、クリ、ツブラジイ
28	河内神社	" 二見	ツブラジイ
29	若宮神社	" 二見	
30	八城神社	" 北宇賀	アラカシ、シラカシ、ツブラジイ、

番号	神社名	所在地	ドングリの種類
31	天神社	豊浦町字賀	アラカシ、コナラ、ツブラジイ
32	宇賀八幡宮	" 宇賀	アラカシ、ツブラジイ
33	恵比須神社	" 宇賀	
34	大歳神社	" 宇賀	クリ、ツブラジイ
35	川嶋神社	" 宇賀	ツブラジイ
36	小野神社	" 川棚	アラカシ、コナラ、ツブラジイ
37	河内大明神	" 宇賀	アラカシ、ウラジログシ、クリ、ツブラジイ
38	福德稲荷神社	" 宇賀	クリ、コナラ
39	小島神社	" 小串	ツブラジイ
40	川中神社	" 小串	
41	若宮社	" 川棚	アラカシ、コナラ、ツクバネガシ、ツブラジイ
42	若宮神社	" 涌田後地	コナラ
43	天満宮	" 小串	アラカシ
44	川棚神社	" 川棚	アラカシ、コナラ、ツブラジイ
45	和田守神社	" 涌田後地	アラカシ、クヌギ、ツブラジイ
46	蛭子社	" 室津	コナラ
47	室津八幡宮	" 室津	
48	貴船社	" 川棚	
49	大歳宮	" 吉永	アラカシ、クヌギ、ツブラジイ
50	松尾神社	" 川棚	アカガシ、アラカシ、ツクバネガシ、ツブラジイ
51	吉永八幡宮	" 吉永	クヌギ、ツブラジイ
52	宮地嶽神社	" 吉永	アラカシ、クリ、コナラ、ツブラジイ
53	招魂社	" 黒井	アラカシ、コナラ、ツブラジイ
54	杜屋神社	" 黒井	アラカシ

謝 辞

この研究にあたり資料集めに協力して下さった三時和久氏に深く感謝致します。

引用文献

阿部弘和 (1985) : ドングリの分類と観察、遺伝39巻9号、66-71

阿部弘和・森田和則 (1989) : 山口県のドングリ (2) 阿武郡、萩市の神社林のドングリ 山口大学教育学部研究論叢、39巻 (第2部)、13-27

阿部弘和・郡司浩史 (1991) : 山口県のドングリ (3) 防府市、徳地町、鹿野町の神社林のドングリ 山口大学教育学部研究論叢、41巻 (第2部)、23-36

阿部弘和・臼井直希 (1994) : 山口県のドングリ (4) 宇部市、楠木町、美東町の神社林のドングリ

- グリ 山口県教育学部研究論叢、44巻（第2部）、1-12
- 阿部弘和・白井直希（1994）：山口県のドングリ（5）秋芳町、三隅町、長門市の神社林のドングリ 山口県教育学部研究論叢、45巻（第2部）、19-30
- 阿部弘和・岡原恵子（1997）：山口県のドングリ（7）大島郡の神社林のドングリ 山口県教育学部研究論叢、47巻（第2部）、13-25
- 阿部弘和・岡原恵子（1998）：山口県のドングリ（8）熊毛郡、柳井市、大島町の神社林のドングリ 山口県教育学部研究論叢、48巻（第2部）、11-24
- 阿部弘和・原田憲幸（1999）：山口県のドングリ（9）下松市、熊毛町、光市の神社林のドングリ 山口県教育学部研究論叢、49巻（第2部）、1-11
- 阿部弘和・原田憲幸（2000）：山口県のドングリ（10）徳山市、新南陽市の神社林のドングリ 山口県教育学部研究論叢、50巻（第2部）、21-30
- 阿部弘和・小路聡（2001）：山口県のドングリ（11）小野田市、山陽町、美祢市の神社林のドングリ 山口大学教育学部研究論叢、51巻（第2部）、45-58
- 阿部弘和・松富憲之（2002）：山口県のドングリ（12）油谷町、日置町の神社林のドングリ 山口大学教育学部研究論叢、52巻（第2部）、13-27
- 岩田利治（1965）：図説樹木学－広葉常緑樹編－、朝倉書店（東京）
- 岡 国夫（2000）：山口県の巨樹資料 植物調査の歩み、山口県植物研究会（山口）
- 北村四郎・村田源（1979）：原色日本植物図鑑木本編、保育社（東京）
- 社寺林調査研究委員会（1985）：山口県の社寺林、社寺林調査研究委員会（山口）
- 花岡隆義・阿部弘和（1986）：山口県のドングリ（1）山口市の神社林のドングリ 山口大学教育学部研究論叢、36巻（第2部）、27-36
- 原靖治・阿部弘和（1985）：野外学習の進め方：ドングリの分類と観察 山口大学教育学部研究論叢、35巻（第3部）、59-80
- 西村淳・阿部弘和（1996）：山口県のドングリ（6）由宇町、岩国市、和木町のドングリ 山口大学教育学部研究論叢、46巻（第2部）、19-28
- 矢頭献一・岩田利治（1966）：図説樹木学－落葉広葉樹編－、朝倉書店（東京）
- 山口県野外植物研究委員会（1993）：山口県の社寺林、山口県野外植物研究委員会（山口）